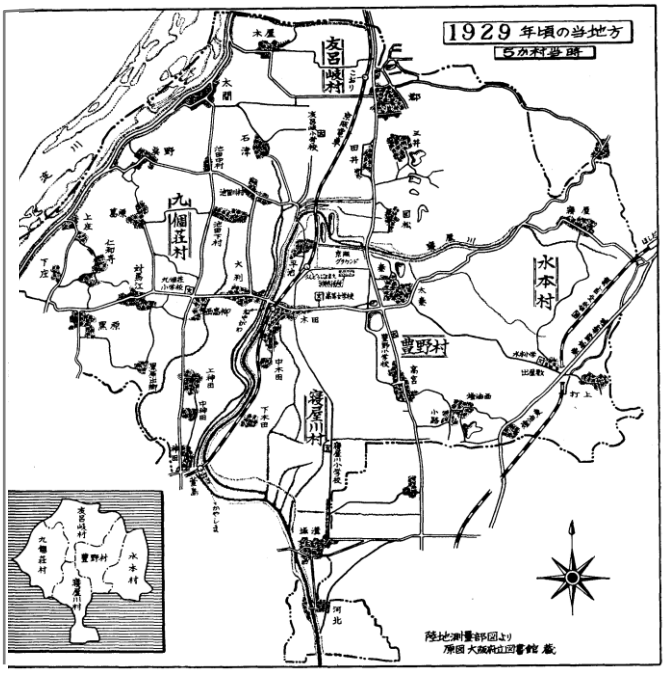
4. 本市の概要

(1) 本市の生い立ちと市街地形成の過程

本市は、市域の中心部を流れる寝屋川を市の名称にしているように、この土地に住む人々と「水」がどのようにして調和のある共生を実現するのか、という課題に取り組んできた生いたちがあります。



注）図は寝屋川市誌（昭和 41 年発行）から引用
1929 年は昭和 4 年

市域の丘陵部には旧石器時代の遺跡があり、縄文時代から弥生時代にかけて市域南部に広がっていた河内湾は、人々に豊かな食料を供給するとともに、いろいろな文化や技術が伝わるルートにもなっていました。

本市の北西を流れる淀川は、古くから人や物の移動の大動脈として重要でしたが、よく洪水も起こり、古代から明治にいたるまで近隣の人々を苦しめてきました。一方、丘陵部に住む人たちは、逆に用水の確保に苦労してきたようです。

明治 22 年に町村制が施行され、市域に茨田郡九個荘村・友呂岐村、讃良郡豊野村・寝屋川村、交野郡水本村が成立しました。 明治 29 年に、各郡は北河内郡になり、昭和 18 年 4 月には九個荘町・友呂岐村・豊野村・寝屋川村が合併して寝屋川町になりました。

昭和 26 年に市制が施行されて寝屋川市が誕生し、昭和 36 年には水本村と合併、続いて昭和 41 年に一部が大東市に編入されて、現在の市域になりました。

その後、住宅都市として発展し、市制施行 50 周年を迎えた平成 13 年に特例市となりました。

このような歴史を有する本市は、生駒山系と淀川に囲まれた河内の豊かな穀倉地帯でしたが、昭和 30 年代後半からの高度経済成長期における急激な都市化の進展は、都市基盤そのものの遅れをもたらしたばかりでなく、豊かな田園風景、丘陵風景をも変貌させ、緑・水辺、のびのびしたゆとりの空間が次第に失われ、本市のシンボルでもある「寝屋川」も市街化に伴い、市民の生活とは空間的にも遠い存在でした。

また、身近な地区景観でもある市街地も各地域の有する個性を活かしきれないまま、市街化が進展し、一部には住工混在地域、密集住宅地区が形成されるなどの課題が生じました。

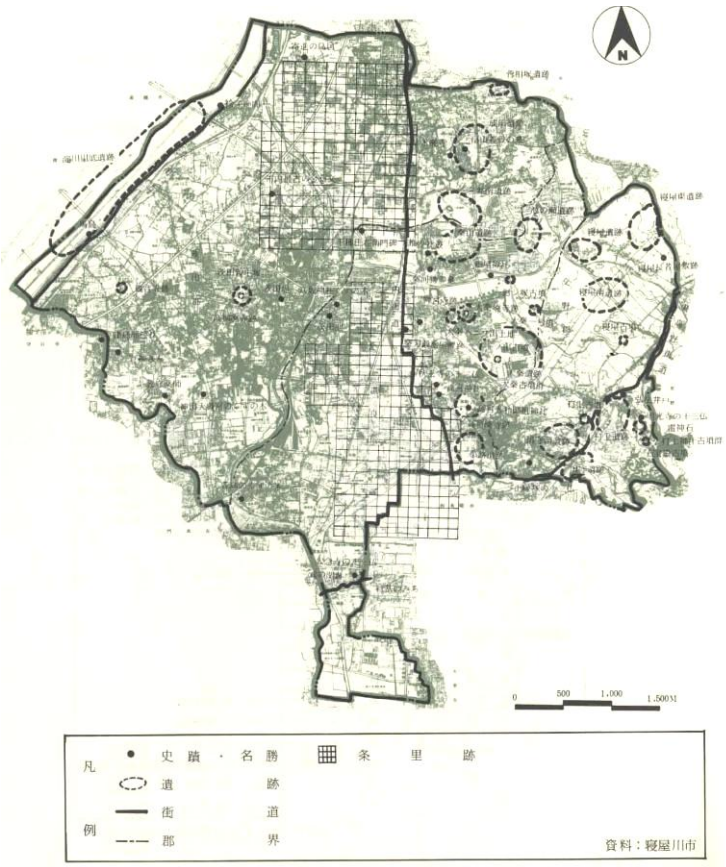
しかし“市内を南北に貫流する寝屋川”、“西部の淀川河川敷”、“市街地背後の生駒山系

丘陵”は、景観形成に寄与する地形的特色を有し、比較的良好な“水”と“緑”の環境が保全されています。また、高宮廃寺跡周辺・寝屋長者屋敷跡周辺の昔の面影を残すまちなみ、河川・水路・ため池の“水”、生駒山系の“緑”の眺望など市民が快適な生活を展開していくための資源がまだ多く残されています。

特に、東部丘陵部には、遺跡、遺構の分布がみられ、その痕跡が残されています。

市内各地に旧集落が存在しており、今でも貴重な緑を有する社寺境内の樹林が周辺のまちなみに歴史を感じさせていますが、「交野街道」、「東高野街道」などの旧街道沿いのまちなみは、昔の面影が失われつつあります。

寝屋川市の歴史資源図

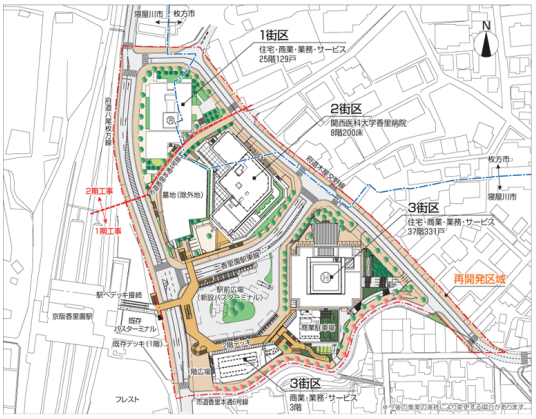


また、戦後の高度経済成長期以降に形成された市街地の形態は、その成立年代、公共あるいは民間の供給主体の相違などにおいて、きわめて多様な状況となっています。

一方、東部丘陵の住宅市街地については、比較的まとまりのある良好な開発が進められたところも多く、ここでの環境の保全・向上が課題といえます。

商業地については、鉄道駅周辺を中心に形成されてきましたが、自然発生的に形成された商店街なども多く、幹線道路沿道へ大型店の進出などによりにぎわいを失いつつあるところも見られます。なお、現在、寝屋川市駅や香里園駅前では市街地再開発事業に取り組み、まちづくりが進められています。

香里園駅東地区第一種市街地再開発事業



寝屋川市駅東地区第二種市街地再開発事業

工業・業務系市街地は、幹線道路沿道を中心に形成されているものの、大規模な敷地では、近年、大規模店舗等への土地利用転換が進む一方、中小規模の敷地も多く、住工混在とともに、景観的な課題を有しています。

(2) 地形・気象

本市の地形は、大きく東部丘陵地帯と西部平坦地帯とに二分されます。気象は、淀川流域にあって、北摂山系と生駒山系に囲まれていることから、寒気が防がれる比較的温暖な気候となっています。

(3) 水の環境

本市の西北端を流れる淀川と中央部を貫流する寝屋川、そして寝屋川の支流である古川・讃良川などが主要な河川です。

また、寝屋川水系においては打上川治水緑地や深北緑地が整備され、広域的な治水機能の整備とあわせ、市民にとっての親水的なレクリエーションの場となっています。

地勢図

淀川の河川敷

寝屋川のせせらぎ公園

寝屋川の幸町公園

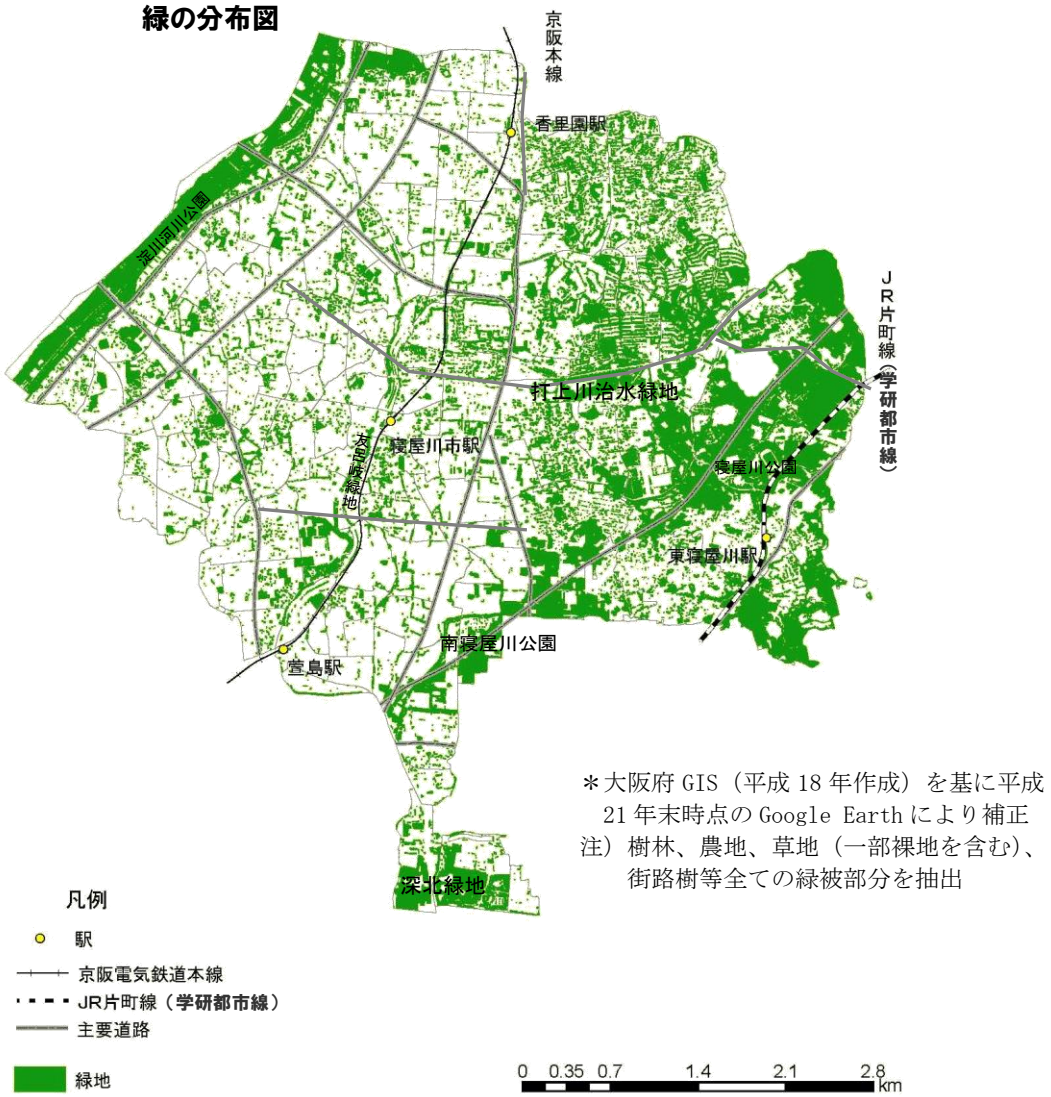
(4) 緑の環境

樹林地は、東部の丘陵地域における傾斜地樹林の分布が主なものとなっています。

農地は、同じく東部丘陵地帯や南部の市街化調整区域において、比較的まとまった分布がみられます。

また、主な公園緑地として、西部に「淀川河川公園」、中央に「打上川治水緑地」、「友呂岐緑地」、東部に「寝屋川公園」、南部に「南寝屋川公園」、「深北緑地」があります。

緑の分布図



＊大阪府 GIS（平成 18 年作成）を基に平成 21 年末時点の Google Earth により補正
注）樹林、農地、草地（一部裸地を含む）、街路樹等全ての緑被部分を抽出

(5) コミュニティ活動

近年、人々の日常的なふれあい、緑化活動、地域清掃活動などのコミュニティ活動を通じ、協働による快適なまちづくりに向けての市民の主体的な活動、地域の自主的な活動のさらなる充実が求められています。

さらに、これらの活動の醸成に努めることにより、地域に存在する優れた景観資源の保存を推進していくことが必要です。